

誤りがちDNA修復経路を標的とした新規がん治療方法

放射線健康医学 香崎正宙

利用分野

薬物療法や放射線治療標的との組み合わせによるがんの集学的治療で用いられるポリフェノール。

シーズ

抗がん剤処理後や放射線治療後に誤りがちDNA修復経路が活性化するタイミングで、誤りがち修復経路阻害剤を用いて人為的に抑制すると、分子レベル・細胞レベル・マウスの個体レベルでも有意にがん細胞の増殖を抑制することを実証した。



ニーズ

シスプラチンなどの抗がん剤による副作用や二次発がんが長年問題になっている。また、従来の抗がん治療方法では、高価な抗がん剤による医療費の高騰・個人負担の増加と、副作用の問題が常に伴っており、サステナブルな抗がん剤開発は難しい状況である。

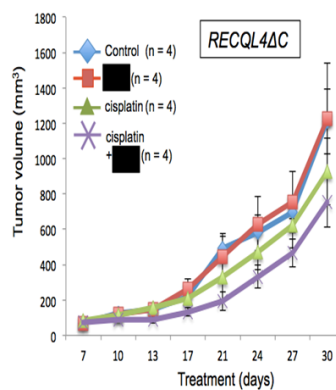
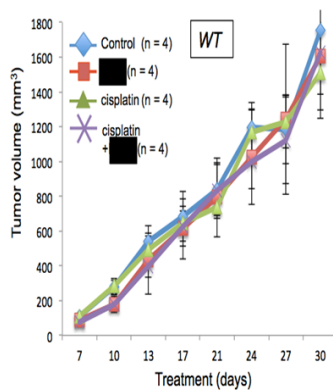
連携分野

- 構造最適化のために化合物ライブラリーを提供してくれる企業
- 臨床試験に協力してくれる医療機関



知財保護

特願2017-138916



がん細胞の
あたらしい
弱点を発見



本学マスコットキャラクター
ラマティー



産業医科大学 産学連携・知的財産本部
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp